

NHK 月曜ドラマシリーズ 「蜜蜂の休暇」撮影協力

吉田 忠晴

平成 13 年 6 月 11 日 (月) から全 5 回にわたり、NHK 月曜ドラマシリーズ「蜜蜂の休暇」が放映された。ご覧になった方も多いと思われるが、作は著名な池端俊作氏、演出は門脇正美氏、出演は加賀丈史さん、樋口可南子さん、かたせ梨乃さん、内田朝陽さんほか。内容はミツバチそのものを扱ったものではなく、男が記憶を失うことをきっかけとして、人生の羽を休めている間に思い出す青春帰郷のドラマである。

これまで科学番組や教育番組で、ミツバチに関係する撮影には度々協力しているが、ドラマは初めてのことである。さらに今回は、ニホンミツバチがドラマや登場人物を象徴する存在として取り上げられ、「蜜蜂生態監修」という立場で準備、撮影に全面的に協力した。

脚本家の池端俊策氏が拙著「ニホンミツバチの生態と飼育法」を読み、ドラマの中でニホンミツバチを使いたい、との相談があったのは昨年 10 月であった。今年の 1 月になり NHK エンタープライズ 21 の門脇正美エグゼクティブ・ディレクターほかドラマ部のスタッフと打ち合わせが行われ、ラン (キンリョウヘン) にニホンミツバチの分蜂群が誘引され、蜂球を造

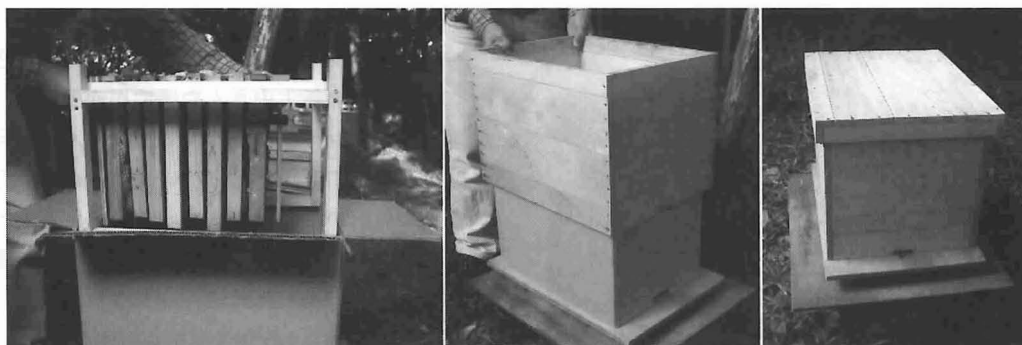


キンリョウヘンに集まるニホンミツバチ

ることをマンションの屋上で再現できるか。その蜂球をどのようにしてダンボール箱に回収するか。ダンボール箱やダンボール箱のハチを入れ替えるために造られる巣箱から出入りするミツバチをどのような方法で飼育するかなど、重要なシーンについて検討が行われた。

本番に使われたダンボール箱と巣箱から出入りするニホンミツバチは、飼育方法に工夫を凝らし、同じ蜂群が使われた。最初にダンボール箱のサイズが決まり、そのダンボール箱の外側部分がすっぽりと入る形になっている巣箱が製作された。4 月 7 日に和歌山県で分蜂した蜂群を送ってもらい、その巣箱で飼育が開始された。巣箱内部は、10 枚の縦長巣板が吊り下げられるように木枠が組まれている。この 10 枚の縦長巣板からなる蜂群は、木枠ごとダンボール箱に収めることができるため、ダンボール箱、また巣箱でニホンミツバチが飼われているかのようになる。このようにして、撮影時まで巣箱で飼育を続け、10 枚群の蜂群を確保した。

キンリョウヘンの鉢植えは、蕾の状態で熊本



巣板がダンボール箱に、ダンボール箱が木箱に、入れ子になった撮影用巣箱



ランに集まったミツバチを囲む撮影陣

県より送ってもらい、撮影日にちょうど満開になるように、日陰に置いたり、室内に持ち込んで温度を上げたりして開花を調節した。さらに撮影2日前にキンリョウヘンに飛来した分蜂群も送ってもらい、キンリョウヘンに飛来した経験のある蜂群を準備した。

ミツバチ関連の収録は、4月26、27日の2日間、蒲田駅近くのマンションの屋上で行われた。特に27日は天候にも恵まれ、まさに分蜂日よりであった。屋上の花壇の中にキンリョウヘンが置いてあり、そこに分蜂群が飛んできたという設定である。送ってもらった蜂群をランの近くで放つと、飛んでいた働き蜂はランにすぐに集まり出し、大きな蜂球が形成された。撮影スタッフには、面布をかぶってもらったが、飛び交うハチの怖さより蜂球が形成される神秘に驚きの声があがり、カメラマンも興奮気味であった。

キンリョウヘンの花序に造られた蜂球をダンボール箱に移すシーンは、場面の中での大きなポイントでもある。ニホンミツバチ養蜂を夢見た養蜂家の息子、桜木光の役柄である内田朝陽



突然舞い始めた蜂群をカメラが追う



箱に蜂を移す手順について入念な演技指導

さんは、手際良くハチを扱って見せなければならぬ。しかも本番は素手で、面布なしと危険もあるため、ダンボール箱の上に斜めに置いた蜂球部分の花序を剪定鋏で切り落とすという手順になった。蜂球が形成されてから約1時間しか経過していなかったが、本番に入る直前に、なんとキンリョウヘンに集まっていた働き蜂が騒ぎ出し、ほんの数分でランからほとんどの働き蜂が飛び離れ、屋上の上を飛び回りはじめた。どこかへ飛んで行くような勢いで、一時はどうなることかと思った。その間の貴重な乱舞は、カメラに収められ、放送時にはタイトルバックに使われた。幸いにも、女王蜂は籠に入れて隔離していたため、蜂群は逃去するに至らなかった。女王蜂をキンリョウヘンの花序の近くに置いたところ、働き蜂が一斉に女王蜂の周辺に集まり、再びキンリョウヘンに集まったかのような蜂球を造ることができた。

実際に蜂球をダンボール箱に移す本番1回限りのシーンは、緊張する場面であったが、内田朝陽さんのハチを恐れない堂々とした演技に監督から「OK」の合図が出され、スタッフから拍手が起こった。

ハチが飛び交う巣箱を前にして、動ずることなく演技する加賀丈史さんや樋口可南子さん、最終回にニホンミツバチが戻って来たんだと目を輝かせる内田朝陽さんと小寺初美役の浅井江理名さんの目の前を飛ぶミツバチを撮影したカメラワーク、どれもドラマでこそ経験できた貴重な撮影協力であった。

(〒194-8610 町田市玉川学園6-1-1

玉川大学ミツバチ科学研究施設)